

「自分が大好きで、 自分が信じられるようになるために」

園長 高杉 美稚子

春の風がふき、新しい季節、そして新年度4月がやってまいりました。私はこの季節が一番大好きです。少し大人びた進級生、新しい園児達、保護者の方を迎えて、そして職員と共に歩き始める新年度のスタートです。胸にいっぱい希望があらわれてくるような感じがします。今、園児たち、保護者の皆様、先生という素晴らしい吉塚幼稚園の仲間がめぐり合ったことに心から感謝致します。今年はこのメンバーであることの必要性がきっとあるはず。だから、この仲間であったことに感謝して、自分に謙虚に精一杯生きていきたいと思えます。

考えられなかった、福岡西方沖地震が起こり、改めて自分の責任ではないどのような事が起きて、起こった事態に対応できる、人間作りをしておかなければと、心を新たにしています。

今年も年度当初にあたり吉塚幼稚園の教育方針について確認したいと思います。

本園の教育の三つの柱は1、「教育は真の自立への援助の道」2、「教育は感動と思い出を作ること」3、「教育は知ることの喜びを与えること」です。

そしてこの教育は

- 1、**共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」、
- 2、**響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、**驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。私は、教育は決して「競育」や「狂育」「奮育」であってはならないと考えます。感性に裏付けられた知性こそが本当の知恵であって、ただの知識で終わってはならないのです。美しいものを美しいと思う純粋な心、あるがままの自分を認められる素直な心、自分と同じように他を認められる謙虚な心を大切に出来る人達になってほしいと願っています。

これから私達大人が子どもに受けさせたい良い教育とは何なのでしょう？

今年はその事を、自分が大好きで、自分が信じられるにはという、自分軸で考えてみたいと思えます。そのためには、保護者の方が先ず自分の事を好きになって頂きたいのです。幼稚園の教育では「自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個別性→共感←自立」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていきます。保護者の方もこの教育の良循環の上に、自分が大好きになるためには次の事を知って頂きたいと思えます。

- 1、「卑屈」は自分をだめにして相手に迎合すること
「謙虚」は自分を大切にすること
- 2、傲慢は自分だけ愛すること、本当に自分を愛する事が出来る人は、同時に相手も愛せるようになること
- 3、おろかな人は、嫌いな自分に執着し、嫌いな人に執着する。
賢い人は好きな自分を大切にすることができる
- 4、人のせいにしている人は苦しみ・悲しみから抜けられない
苦しみ・悲しみを受け入れた時人は成長する事ができる。
- 5、自分だけのことにしか関心がない人は常に相手に不満を持ち、相手と自分を同時に関心を持つ人は、自分の弱みに気づく
- 6、人に認められたい、人を見返してやりたい人は段階も踏まないし、準備もしないので失敗する。自分がしてみたいと思う事をする人は努力し、成功する。
- 7、他人に認められたい人は、努力しないで「濡れ手にあわ」を期待する。
自分が認められる人は、人が見ていなくてもコツコツ努力する
- 8、失敗を人のせいにする人は、他人を恨み、他人の成功をねたむ。

失敗からなぜと考える人は成長する。

9、自分の弱点を受け入れない人は、劣等感に苦しむ。自分の弱点受け入れた人は自分の素晴らしさに気づく

10、自分の弱点の原因を受け入れない人は、人を批判し嫌われる。自分の失敗受け入れた時は人をほめて好かれる。

11、失敗は失敗ではない。失敗と感じる価値観を持っているに過ぎない。自己蔑視、その価値観が自分を苦しめているに過ぎない。

以上の事を、知っていきましょう。そして、自分にとって良い行動を実践しましょう。

「少しだけふりをやめてみよう、好きなふり、嫌いなふり。満足しているふり、愛しているふり、今日だけふりをやめてみよう、ふりをしても何も解決しないのだから。ふりをしていると自分なくなる。そのままのほうが好かれる」加藤帝三のことばです。自分が大好きになれば、人が好きになれるのです。人との共存で初めて人間になれるのです。人がいて、社会ができ、その社会の中で、生きて初めて人間になるのです。

一人が頑張っても、良い教育は、環境は一人で完成できるものではありません。子ども達がいて、それを支えてくれる家族がいて下さって、真摯な教育をめざす教師がいて初めて一つの教育が完成されます。共に育つことが、まず第一です。子ども達も、自分の力を十分に発揮してくれるでしょう。しかし、最後にこの環境を作っている一員は自分だということも忘れずいましょう。子ども達の教育の更なる充実、私たち親・教師一人一人に託されています。自分が良くなって、自分が向上しなくて、自分が不平不満をもって、いい子育てが出来ないわけがありません。子ども達にとっていい人的環境になるはずはありません。いい環境にするためには、まず自分からです。一人一人が、いい環境にまずなりましょう。そして皆でいい中身を作りましょう、そして教師も、親も子どもとの中で共に育ちましょう。

そして、最終的に、自分が人の評価ではない、自分の中のもう一人の自分が自分を認めてあげる日、真の自立の日が迎えられる日まで頑張らしましょう。そんな成長の場を共に作りましょう。この実現のために手を取り合っていきましょう。それは、とりもなおさず、人間として自己成長につながります。前を向いて歩くことが大切です。失敗したら、そこで学ばばいいのです。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一步を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。『情けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってきます。目の前の事柄や手段や結果のみに振りまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけて子育てを「自分育て」をしていきましょう。すべては、プラス思考です。

でも、感動と思い出は誰も作ってくれるものではありません、自分の手で作るのです。感動と思い出は、その人がそれぞれの立場で、精一杯頑張った分だけ平等にかえってきます。「Should-ねばならない」から「Will-したい」へ心を転換しましょう。

その為には

- 1、感覚を鋭敏にして観察力と感受性を持つこと（見る力、聞く力、感じる力）
- 2、目標を明確にすること。
- 3、3つ以上の視点を持って、常にフレームを変えて、柔軟性を持つこと
- 4、今日できる事を、自分にできるところから今やり始めること

全てのできごとには肯定的な意味があります。自分にとって必要だからその事が起きているのです。「今ここ」に生きていれば、失敗はありません。過去に生きるから、失敗と後悔があり、未来に急ぎすぎるから、不安と焦りがあるのです。今にいれば結果があるのみです。そして結果を得た後は「今からどうするか」が大切なのです。

新しい一年が始まりです。どんな日々を過ごすかは、全て自分次第です。

子ども達の為に、思いを、魂を、心を、力を尽くしましょう。いつも子ども達を信じ、子ども達を見守りましょう。子ども達、保護者の方、そして私たち職員にとっても、思い出に残る一年になりますよう、職員一同力をあわせて頑張ります。今年一年間の保護者の皆様の吉塚幼稚園に対する、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。